

# 経営比較分析表

宮崎県 宮崎市

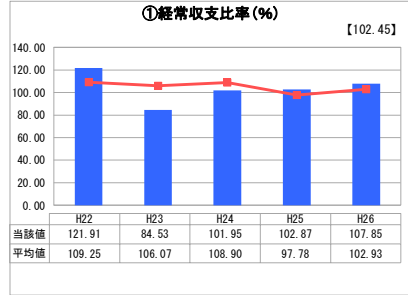
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	簡易水道事業	C4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	44.58	0.36	2,462

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
405,750	643.67	630.37
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,469	11.36	129.31

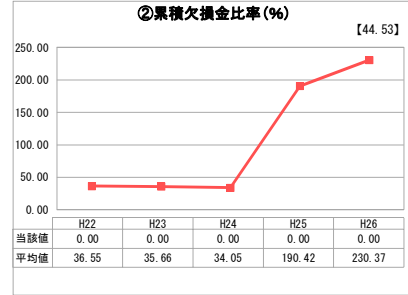
## グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

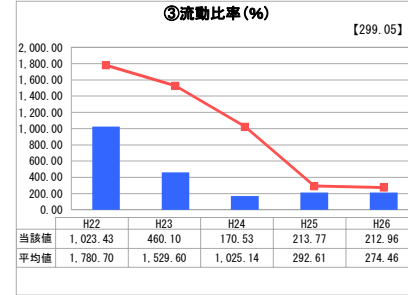
## 1. 経営の健全性・効率性



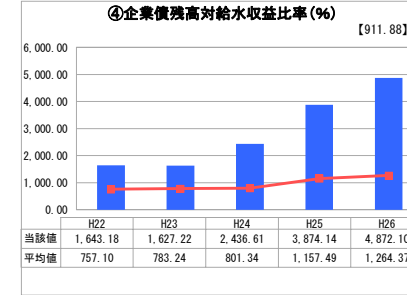
「経常損益」



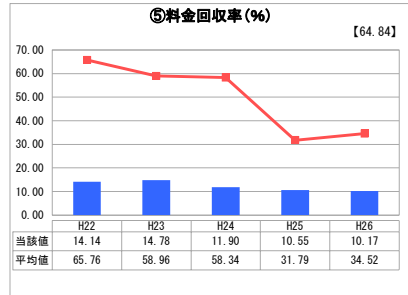
「累積欠損」



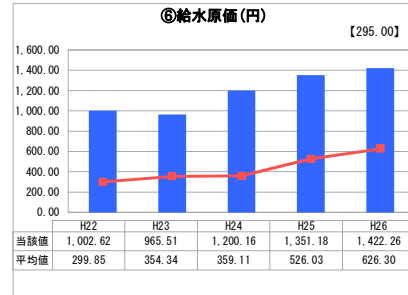
「支払能力」



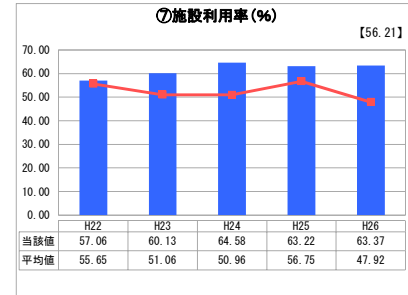
「債務残高」



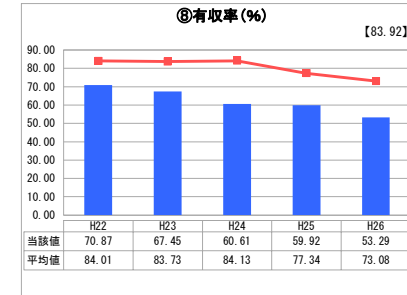
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

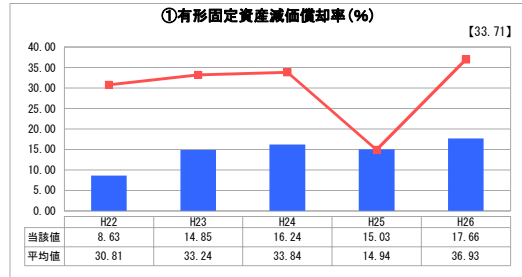


「施設の効率性」

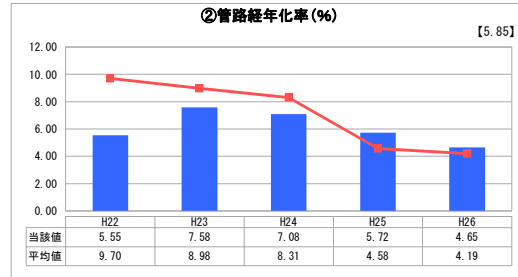


「供給した配水量の効率性」

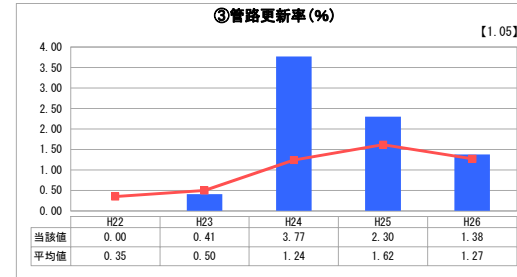
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

●経営の健全性について  
累積欠損はなく、「流動比率」は類似団体平均や全国平均よりも低いものの、支払能力としては十分な水準にあります。  
「料金回収率」は、水道事業と同一の料金体系を採っているため低くなっておりませんが、収支不足分を一般会計からの繰入金で賄っているため、「経常収支比率」は100%以上となっております。  
また、水道事業への統合に向けて整備を進めているため、「企業債残高対給水収益比率」は、類似団体平均や全国平均よりも高くなっておりまして

●効率性について  
「給水原価」は、施設整備により減価償却費等の割合が高いことから、類似団体平均や全国平均よりも高くなっておりまして。「施設利用率」は、類似団体平均や全国平均より高いことから、施設の効率性は高くなっておりまして。  
「有収率」については、類似団体平均や全国平均より20～30ポイント低いため、供給した配水量の効率性を高める必要があります。

注)「経常収支比率」、「流動比率」、「料金回収率」、「給水原価」のH26年度の数値については、会計制度見直しによる影響も含まれております。

### 2. 老朽化の状況について

本市の簡易水道事業は、H22年度より地方公営企業法を適用したため、「有形固定資産減価償却率」が低くなっておりましてが、資産の老朽化は数値以上に進んでいると考えております。  
また、「管路経年化率」は水道事業への統合に向けて、年次的に整備を進めているため、改善しておりますが、「管路更新率」は、年度によって整備内容が大きく異なるため、年度によって変動が大きくなっておりまして。  
これは、整備が完了した地区から順次水道事業へ統合していることも影響していると考えられます。

## 全体総括

本市の簡易水道事業は、効率的な事業運営を行うため、水道事業への統合に向けて整備を進めており、H28年度末をもって廃止予定となっております。  
また、年次的に整備が完了した地区から水道事業へ統合しているため、年度によって経営環境が大きく異なるため、年度間での比較が困難な状況です。  
なお、水道事業と同一の料金体系を採っているため、H28年10月より料金を改定することが決定しております。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。